

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

21 (通巻25号)

平成17年11月11日発行

【目次】

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【24】 あぁ～日本のどこかに～ ～ “何でもわかる図書館” をめざす～	1
こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【14】 世界の妖精・怪物を調べる	2
市町村のみなさんからの発信 【12】 レファレンスを知ってもらおう！～中小図書館のちいさな取り組み～ 砂川市図書館 工藤雅子さん	3
Librarian's Box(ししょぼこ) 【11】 『大日本史料』の利用 - 東京大学史料編纂所データベースの紹介 -	4
課員のつばやき - 日々の業務からの短信 - 【13】 できるところから始めなければ...。研修偶感	5
道内図書館レファレンス・サービス最前線 読み物風・SDI 北広島市図書館 新谷良文さん	6
News	7
1 各種研修会・事業等 (1) 平成17年度読み聞かせボランティア読書活動研修会終了 (2) 平成17年度教職員10年経験者研修実施(8/9～10) (3) 平成17年度図書館実習実施(8/16～19、23～25) (4) 全道図書館研究集会開催(9/8～9) (5) 市町村図書館職員レファレンス体験研修実施！まだまだ受付中!! (6) デジタル・ライブラリアン講習会<北海道短期集中コース>に自主参加!(9/4～6) (7) 学校巡回(市町村支援課事業)に参加 (8) 第47回北海道図書館大会開催(10/11～12) (9) 平成17年度第91回全国図書館大会茨城大会開催(10/26～28)	
2 一般向け利用講座等 (1) 平成17年度北海道立図書館利用講座(道民カレッジ連携講座)前期終了 (2) 館内ツアー まもなく5回目です	
3 道内学校図書館から全国へ!! (1) 第10回NIE全国大会(鹿児島)(7/28～29)でパネリストに! (2) 学校図書館問題研究会第21回大会(神奈川)(8/7～9)で実践報告!	
相互貸借に関わるお知らせ	8
編集後記	9



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【24】

あぁ～日本のどこかに～ ～ “何でもわかる図書館” をめざす～

児童文学を研究している方からカウンターで受けた 1 件です。

「『オアシスの魚 少年詩集』に山下清三の詩『ひばり』が掲載されているが、初出については全く掲載されていない。初出について調べてほしい」という内容でした。

『オアシスの魚』(日本児童文学者協会〔編〕小峰書店 1986.2)は当館にはありませんでしたが、山下清三氏は児童文学の分野では知られている方のように、詩もかなり執筆しているため、初めは索引等ですぐ見つけられるのではないかと思いましたが、それが長い旅のはじまりでした。

まず、『オアシスの魚』が日本児童文学者協会で編集されていることから、雑誌『日本児童文学』の執筆者名総索引にあたってみたところ、山下清三氏の作品は多く掲載されていましたが該当の詩はありませんでした。次に児童文学・詩関連の事典等に掲載されている山下清三氏の著書を調べましたが当館では所蔵していませんでしたので、他館へ調査依頼をすることになりました。

そこで、山下清三氏の出身地の鳥取県立図書館へ照会。著書・同人誌等について調べていただきましたが見つかりませんでした。続いて、地方誌以外に中央誌にも多く執筆しているとのことで、国立国会図書館に照会しましたがこちらも見つかりませんでした。

それでは、と方向を変えて児童文学専門の国際子ども図書館に照会しました。ここでは、『オアシスの魚』のあとがきに、引用した詩の全ての初出誌が掲載されていたとの回答を得ましたが、残念ながら国際子ども図書館では、未所蔵の雑誌があり見つけられませんでした。利用者の初めの話では「初出は、全く掲載されていない」ということでしたので驚きましたが、この手がかりからもう少し調査を継続してみることにしました。そして、大阪府立国際児童文学館に照会した結果、ついに雑誌『ぎんやんま』5巻1号に掲載されているとの大変良い知らせをいただきました。それは、国際子ども図書館ではちょうど欠号となっていた資料でした。

改めて、日本のどこかの図書館で必ず解決できるということに期待と安心を感じています。関係機関の方々に（日本現代詩歌文学館の方にもお世話になりました）この場を借りて御礼申し上げます。

今回の件に限らず、まだ研究が進められていない事項については、関連資料を探すことに時間を要することもあります。数多くの研究が進むようにできる限り私たちもバックアップしていければと思います。同時に研究成果を、私たちの今後の迅速なレファレンスに役立つ資料として還元していただければ、と期待しています。

こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【14】

世界の妖精・怪物を調べる

近年は「ハリー・ポッター」や「指輪物語」等のファンタジー作品が話題になり、映画で知って原作を読むという方も増えているのではないのでしょうか？ そのようなファンタジーには、架空の存在である妖精や怪物などが数多く出てきます。西洋人にとっては特に説明の必要が無いようなキャラクターでも、日本人の私たちにとっては「それってどんな存在なの？」と思うことが少なくありません。

今回紹介する参考図書は、そのような疑問に答えてくれる資料の中から、海外の研究者によって近年編集された本を選んでみました。西洋だけではなく世界中を網羅していて、河童や天狗など私たちにとって馴染み深い妖怪について記述もあり、いろいろな角度から興味深く読むことができます。

『世界の妖精・妖怪事典』(キャロル・ローズ著 原書房 2003.12 535p 21cm) <請求記号:388/SE>

イギリスのヨークシャー州出身で、美術史、心理学を専攻し世界各国の意匠や信仰にあらわれる象徴を研究している著者による、天使やローレライ、『指輪物語』に登場するホビットなど、空想の世界に生きる世界中の妖精と妖怪を集大成した事典。3000項目、図版100点を収録している。

『世界の怪物・神獣事典』(キャロル・ローズ著 原書房 2004.12 537p 21cm) <請求記号:388/SE>

上記の同著者による、サラマンダー・麒麟・巨人・ドラゴンなど、人類の恐怖と畏怖を具現化した空想の生き物を世界中から集大成した事典。3000項目、図版120点を収録している。

『図説妖精百科事典』(アンナ・フランクリン著 東洋書林 2004.3 717p 22cm) <請求記号:388/Z>

イングランド中部地方の村に住み、伝承や神話学に基づいた数十冊の本を書くなど執筆活動に専念している著者による事典。アイルランドを中心とした欧米諸国をはじめ、アフリカ、南米、インド、日本など、世界中のいたる場所にあまねく「存在」しつづけてきた妖精・精霊・妖怪のものけ、約3000種を150点の図版と共に紹介。巻末には「欧和対照見出し項目」があり、アルファベットからも検索できる。

【河童はモンゴルに棲む夢を見るか？】

『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』(J.K.ローリング著 静山社 2001)のp.225で、主人公のハリーにいつも意地悪をするスネイプ先生が、「河童はむしろ蒙古によく見られる」と講釈する場面があります。

海外の読者はともかく、日本人なら「？」と首を傾げる場面です。日本でおなじみの河童は、モンゴル発祥の怪物として世界では認識されているのでしょうか？

今回紹介した参考図書で「河童」の項目を見ると、『世界の妖精・妖怪事典』では「日本の神話に登場するデーモン」、『世界の怪物・神獣事典』では「日本の民間伝承に現われる水の怪物」、『図説妖精百科事典』では「日本の奇妙な水の妖精」と解説があります。

これらの本を見ると、とりあえず海外でも河童は日本の物として認識されていることが分かります。それでは、河童はモンゴルに棲んでいるというスネイプ先生の講釈は何だったのでしょうか？

実は、ハリー・ポッターの魔法学校の指定教科書という設定で『幻の動物とその生息地』(J.K.ローリング著 静山社 2001)という本があるのですが、そのp.67の河童の項目に「河童は日本の水魔で、浅い池や川に生息する。」と、しっかり記述されているのです。そして、ハリーの友達が書いたと思われる「スネイプもこの本読んでないわ」という落書きまで載っています。つまり著者のJ.K.ローリングは、河童が日本の妖怪であることを知った上で、わざとスネイプ先生に間違った発言をさせていたという訳なのです。

しかし、スネイプ先生は勘違いをしていたのか、それとも意地悪で嘘を教えていたのか。それは読者に想像してもらおうという、作者のちょっとした悪戯なのかもしれません。

市町村のみなさんからの発信 【12】

レファレンスを知ってもらおう！～中小図書館のちいさな取り組み～

砂川市図書館 工藤雅子さん

「レファレンスのことなら、何でも構いません」

夏休みが終わり、図書館にも落ち着いた空気が戻ってきた8月のある日、『Do-Re』の原稿依頼の電話がかかってきた。「ついにDo-Re デビュー!？」と思ったのもつかの間、なかなか良いレファレンス事例が浮かばない。そこで「何でも構わない」という心強いお言葉に甘えて、レファレンスを知ってもらうための当館の取り組みについて紹介する。

「利用者にレファレンスが浸透しない」というのは大規模の図書館ならともかく、専用カウンターや職員を持たない中小の図書館にとっては悩みの種だ。

そこで考えたのが「レファレンスのアピール」。これだけを見るとなんてことはない気がするが、「このようなサービスがありますのでご利用ください」と紹介するだけでなく、社会教育課で毎月発行している生涯学習総合情報誌に毎月情報を掲載することにした。その情報誌は市内の主要な機関に置かれるほかに、市内の教育施設でも全児童生徒に配布される。全10pのうち2pを「図書館だより」として自由に使っている。

「図書館だより」は子ども向け1p、大人向け1pというページ構成なのだが、大人向けのメインの記事として17年度は「こんなときは図書館!」を連載している。これは主に図書の利用法なのだが、リクエスト制度、相互貸借、道立図書館や国立国会図書館の紹介などレファレンスに近い内容も掲載している。

下記の記事は「こんなときに図書館! どうしても見たい本がある 道立図書館」(17年5月1日号)



コンセプトは「気軽さ」「見やすさ」で、左横の2コママンガは職員が作成しており、「わかりやすい」と意外と好評だ。上記の内容はレファレンスサービスまで話が及んでいないのだが、その取っ掛かりにはなっているはず(レファレンス特集は17年12月号からの予定)。この連載をはじめてから格段に問い合わせが多くなったわけでもないが、長い期間 根気よく 手を変え品を変えアピールしていくこと、が重要だと思っている。こんなちっぽけなことだが、やらないよりはまし。次はどの手で宣伝してやろうと画策中である。

どんないいサービスをしていても、それを知ってもらわないことには、やっていないのと同じ。ツールの充実、レファレンスの記録の作成、フロアワーク、職員の研修など環境作りとともに、広くアピールしていくことも同じくらい重要なのではないかと考えている。

Librarian's Box (ししょぼ) 【11】

『大日本史料』の利用 - 東京大学史料編纂所データベースの紹介 -

当館は、各分野における学術研究の基礎的資料の収集に努めていますが、日本史においては、東京大学史料編纂所による『史料綜覧』、『大日本史料』、『大日本古文書』、『大日本古記録』、『大日本近世史料』、『大日本維新史料』(現在刊行中のものあり)などを、営々と収集してきました。

史料編纂所の修史事業は、古くは『群書類従』の編纂で知られる塙保己一の和学講談所に由来し、これを継承して明治2年(1869)史料編輯国史校正局が開設されて今日に至るものです。

今回紹介する『大日本史料』とはどのような史料なのかについても、少し説明が必要でしょう。何故ならば、上に記した大物史料同様、日本史に関心を持つ人以外にどれほど知られているか、また、使い方についてどれほど理解されているかは大いに疑問です。

『大日本史料』は、『六国史』(『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』)の後を引き継ぐものとして、まさに国家的大事業として刊行されているものです。

その編纂形式は、編年順で年月日ごとに特定の事件、事柄に関連する史料の該当部分を配列し、その出典資料名を明示しています。年代的には宇多天皇の仁和3年(887)から明治天皇の慶応3年(1867)を16編に分け、各編ごとに順次刊行されています。従って、各編がどの年代をカバーするかを知っておく必要があります。例えば、第4編は文治元年(1185)~承久3年(1221)、第5編は承久3年(1221)~正慶2年・元弘3年(1333)となります。

さて、史料編纂所には多くのデータベースがありますが、ここでは「大日本史料索引システム」を紹介합니다。

『大日本史料』の編纂は各編ごとに担当が分れており、編纂作業の基礎資料となる索引(人名、官職、地名、寺社名、歴史事項等)の作成方法も各担当部で異なっているということで、これらを統合することにより、より十分に活用されることを目的に、現在は第1編から7編までの索引を公開しています。

検索可能な内容は人名官職名索引が基本で、また検索可能な冊次も各編によって違うので、各編の案内を参照する必要があります。

このシステムでどんなことができるでしょうか。「」の人名は『大日本史料』の何編何冊に頻出するか、その出典史料は何々か、といったことが瞬時に確認できます。さらに「イメージ」ボタンを押すと、その具体的な記述内容が冊子体『大日本史料』の画像で表示されますので、どのようなニュアンスの記述かということも確認できます。

この他のデータベースについても触れたいところですが、検証が十分ではありませんので後日の課題とします。お読みいただいた皆さんも、是非使ってみていただきたいと思います。

*東京大学史料編纂所ホームページURL <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp>

課員のつぶやき - 日々の業務からの短信 - 【13】

できるところから始めなければ...。研修偶感

二つの研修に自主参加しました。報告がてら、印象的だったことを書いてみます。

北海道武蔵女子短期大学「図書館員のリカレントプログラム・2005」

7月25日(月)の午後に初参加。上京せずとも地域の大学でリカレント教育が受けられるのは有難いことです。テーマは「ビジネス支援サービスと図書館、そして求められる図書館員のセンス」。ビジネス支援図書館推進協議会・顧問の竹内利明氏による講演と、北広島市図書館の新谷副館長によるSDIサービスの紹介および演習、意見交換・質問の3本立てでした。ビジネス支援といっても、先立つ予算が無いと本格的な展開は難しいと思っていましたが、竹内氏は、まずは見えそうな資料をまとめて別置するところから始めればよいと言われ、当館の「ビジネスコーナー」と称する僅かばかりの書架を、内心恥ずかしく感じていましたが、悪くもないのかと思い直しました。勿論その先へ進まなければなりません。氏はできるところから始め、利用者に育ててもらうのだ、図書館が育ってからサービスを始めるというのは、やる気がないのと同じとも。全くそのとおりです。先進的な事例紹介はやはり都市部が多かったのですが、質疑の中で、例えば観光地であれば、観光客が現地の図書館に来てインターネットや資料をそこで見て、滞在型の観光ができるような仕掛けを考えては、といった話など、地域の実情に合わせた展開事例も示されました。一昨年の全国図書館大会参加時には、既にビジネス支援の分散会があり出てみたかったのですが、20名と参加枠もあり、当館のレベルで出ても・・・と結局他を選んだのですが、やはり話は聞いてみるものです。SDIサービス演習も、仕組みがわかって参考になりました。

デジタル・ライブラリアン講習会<北海道短期集中コース>

9月4日(日)から3日間、北広島市図書館を会場に行われました。参加費3万円を私費で払うだけの価値のある中身の濃い講習会でした。「変革期の図書館経営とハイブリッド図書館」(慶応大 糸賀雅児氏)では、図書館が地域の課題に応えるべく、既存の資料や情報に付加価値を高め、オリジナルコンテンツを作って情報発信していく必要性を、図書館の重要性を認識してもらう意味でも、特に今有効なターゲットは行政支援であると。「図書館業務におけるインターネットの可能性」(昭和女子大 大串夏身氏)では、ビジネス支援も視野に入れた膨大な有効サイトと、その特性について詳細な資料と講義が。知らなかったものも多く、反省しきり。「図書館による情報発信」(慶応大 原田隆史氏)では、ホームページの作成・評価や、図書館システムとXMLなど、演習付きで。こうすれば予算もかからず無駄も省けて効率的というように、現場向けに話されました。「公共図書館でのインターネット活用法」(秋田県立図書館 山崎博樹氏)では、秋田県立や出向時の国会図書館での経験、実績を踏まえたお話がありました。やり手の山崎さんだけに、日々の仕事に取り組む姿勢や予算獲得法なども興味深く聞きました。「やりたいことを普段からためておく。チャンスはいきなり来る。五千万円予算を取ったときは、話が出て30分で資料を出した。1日で一億五千万円ついたことも...」など、さすがです。盛り沢山の3日間で書き尽くせませんが、全講師の講習会にける凄まじい熱意、休憩も惜しんで途切れなく続いた講義、大量の資料...咀嚼して自分のものにするにはもう少し時間がかかりそうです。

両方とも、当館から複数人参加しました。講師陣が異口同音に言われたように、取り掛かりやすいところからまず始めたいと思っています。月日は瞬く間に過ぎますが、口先だけの決意倒れに終わらぬようにと、自分に言い聞かせている今日この頃です。

道内公共図書館レファレンス・サービス最前線

読み物風・SDI

北広島市図書館 新谷良文さん

昔(20年くらい前) 弁護士の法律相談は、一言でも口をきいたら5千円と言われていた。現代は、何とかアドバイザー、プランナーなどなど、まさに相談屋全盛の時代である。

図書館の相談業務も、(実は)1回5千円! そう考えると元気が湧いてくるし、たいいていのことは、やってあげたいという気持ちになる。

図書館界の方は金銭の話をする、まるで禁忌に触れたような顔をするが、孔子は今日わかったら明日死んでもいいとまで言っている。死ぬほど嬉しいことをしてあげたのなら、5千円くらい貰った気になっても真理の神様は罰しないと思うのだが。

レファレンスは、そんな幸せな仕事のひとつだ。

以前、SDIを受けている方々に、もし、このサービスが有料だとしたら、あなたはいくら払いますか? という質問をしたところ、全員が月に300円という答えを返してくれた。このサービスに毎月300円の身銭を切っても良いと考えてくれていることはスゴイことだし、とてもありがたい評価だと思う。

SDI = Selective Dissemination of Information 情報の 選択的 な 提供

一般的には、選択的情報提供と訳されているサービスであり、完全な輸入外来種。しかも戦略的防衛構想(Strategic Defense Initiative)と略称が同じ。

事前に打ち合わせた特定のテーマに関するキーワードに基づいて定期的に各種データベースを検索し、得られた情報をeメール等で配信するという内容のサービスである。

北広島市図書館は、このサービス実施のためのモニター事業を平成14年6月からスタートさせた。途中、新着情報サービスと名称を変え、専用のメーリングソフトを構築し、キーワードを30まで増やして事業拡大してきた。最初の反響の多くは、ビジネス支援やハイブリッドサービスに力を入れている首都圏の研究グループや国の機関からであった。

そこに集まっている方々への事例発表や意見交換は、片田舎の図書館員にとって極上の収穫となった。そして、はっきり言うが、自らの大地が、そういった気運から徐々に遠のいているのではという危機感を持つに至った。一生懸命やっているのは皆同じ。問題は目標や効率指標の検討、つまりは「一生懸命の跡ではなくて、後だ」ということ。これは十分に注意しなければならないことだと思う。

SDIに限らず、いわゆる発信型・プッシュ型レファレンスは重要な課題である。レファレンスは、資料以上に図書館の財産だと、私は思っている。その価値を知らしめる戦略の遅れは、ツールの貧困を招き、結果的に提供情報や資料の枯渇を呼ぶこととなるだろう。

先日、ある方から久しぶりにメールが入り、ところで、あの「戦略的情報提供」はどうなってますか? と聞かれた。意図してかどうか絶妙な呼び名をいただき、とても感謝である。

さて、サービスの詳細については下記のURL・文献をお読みいただき、登録し、実際に配信を受けてみてはいかがだろうか? もちろん、全国誰にでも配信は無料です。

受付・登録: 学び舎・楓(まなびや・ふう)HP <http://www.manabi.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/> の教材・資料をクリック。

「SDIサービスモニター事業による地域支援の試み」動き始めたビジネス支援図書館～図書館で広がるビジネスチャンス～独立行政法人経済産業研究所 政策シンポジウム <http://www.rieti.go.jp/jp/index.html> の イベント/セミナー > 政策シンポジウム他へ

SDI(選択的情報提供) - 「図書」と「館」を超える - 『図書館雑誌』2003年2月号(Vol.97 No.2)96, 97p/JLA

SDI(選択的情報提供) - 北広島市図書館におけるモニター事業の報告 -

『現代の図書館』2003年6月号(Vol.41 No.2)75p-/JLA

北広島市図書館(北海道)におけるレファレンスサービス 「2004年度公立図書館におけるレファレンスサービスの実態に関する研究報告書」 第二部 事例 2005年3月 全国公共図書館協議会

(pdf) <http://www.library.metro.tokyo.jp/> 都立図書館からのお知らせへ

NEWS

1 各種研修会・事業等

(1)平成 17 年度読み聞かせボランティア読書活動研修会終了

昨年度に引き続き、今年は7月の登別市（当課工藤も運営で参加）、9月の置戸町など、全4箇所で行われました。これにより読み聞かせの輪が一層広がることを望みます。

(2)平成 17 年度教職員 10 年経験者研修実施（8/9～10）

レファレンスについては当課佐藤が担当し、演習とツールの解題の実習をしていただきました。発表では、先生方の雄弁な解説を聞かせていただき、こちらも非常に参考になりました。

(3)平成 17 年度図書館実習実施（8/16～19、23～25）

北海道武蔵女子短期大学と藤女子大学から8名の実習生を迎え入れ、7日間に渡り当館での実務を学んでいただきました。当課では2日間、演習やツールの解題、PRグッズの制作、レファレンスにおける現状と課題についての講義などを行ないました。若い発想力に関心しつつ、これからの時代のよき司書が誕生することを願っています。

(4)全道図書館研究集会開催（9/8～9）

日本図書館協会事務局長の松岡要氏の基調講演に始まり、当館館長からの指定管理者制度導入等における影響についての説明、「これからの公立図書館の行方」をテーマとしたシンポジウム、市町村立図書館からの情報提供などがありました。

(5)市町村図書館職員レファレンス体験研修実施！まだまだ受付中！！

9月29日に札幌市東札幌図書館の竹内智子さんが標記研修（以下“レファ研”）を受講されました。レファレンス・インタビューの工夫や基本ツールの評価、有効なインターネットサイトの利用法など、丸1日盛りだくさんのカリキュラムで、熱心に学んでいかれました。

なお、今年度レファ研はまだ受け付けております。あなたに合った、ご希望のカリキュラムで実施します。希望される市町村の方は、どうぞお早めにお申し込みください。

(6)デジタル・ライブラリアン講習会<北海道短期集中コース>に自主参加！（9/4～6）

20名限定という条件下で、当館から5名参加することができました。当課からは加藤、宮本、伊藤の3名が受講し、「変革期の図書館経営とハイブリッド図書館」（糸賀雅児氏）、「図書館業務におけるインターネットの可能性」（大串夏身氏）、「図書館による情報発信」（原田隆史氏）、「公共図書館でのインターネット活用法」（山崎博樹氏）などの講義や演習、討論があり、密度の濃い3日間でした。この成果を、より多く業務に反映していければと思います。（関連記事 p5）

(7)学校巡回(市町村支援課事業)に参加

今年度の学校巡回事業が終了しました。最終日程は9/26～27の厚真町の小学校4校で、当課伊藤も参加し、工藤直子さんの詩集『のはらうた』から楽しく詩を紹介するアニメーション的なゲームや、大型絵本やしかけ絵本約200冊の展示、学校図書室の運営相談などを行いました。移動図書館バス「あけぼの号」での貸出は、4校でなんと800冊以上もありました。

厚真町は普段から読み聞かせ活動も積極的に行っており、軽舞小では11月22日にアニメーション的手法を取り入れた読書指導についての研究大会も行われます。

浦河町立図書館長小野寺信子氏からご教示いただいたもの。

(8)第 47 回北海道図書館大会開催（10/11～12）

今年のテーマは、「図書館の未来を探る～情報を発信する図書館～」でした。押樋良樹氏の基調講演「図書館の核は図書館員、図書館と図書館員のアイデンティティの確立を」のほか、大学、短大、高校、専門、公共の各図書館からの発表を含めたシンポジウムや、当館業務部長からの情報提供がありました。

(9)平成 17 年度 第 91 回全国図書館大会茨城大会開催 (10/26~28)

「常陸国から図書館の未来を探る～読書の力、図書館の力が社会を変える～」をテーマとした今年度の全国図書館大会が開催されました。日本図書館協会理事長塩見昇氏より基調報告があったほか、ミュージアムパーク茨城県自然博物館名誉館長中川志郎氏からの記念講演「ヒトのことは動物のことは～コミュニケーションの原点を探る～」のほか、12 の分科会がもたれました。当館からは副館長川崎、当課今野が参加しました。

2 一般向け利用講座等

(1)平成 17 年度北海道立図書館利用講座 (道民カレッジ連携講座) 前期終了

5 月末の第 1 回利用講座「本を探す」に続き、7 月 29 日に「統計の調べ方」、9 月 30 日に当館北方資料部担当の「郷土を調べる基礎資料・入門編」を開催しました。連続で受講される方や、仕事で調べ物をしている方など、熱心な受講者にこちらの説明にも気合いが入り、概ね好評のうちに前期日程を終えました。なおこの講座は、後期も 10 月、11 月、2 月に同内容で開催します。

(2)館内ツアー まもなく 5 回目です

6 月から隔月 (6、8 月は 2 回) で行ってきています。普段見ることのない書庫のコレクションを見て感動して下さる方が多く、また図書館の利用方法や道立図書館の役割などを知っていただく良い機会となっています。今年度最後のツアーは、11 月 12 日 (土) 14 時から開催します。

3 道内学校図書館から全国へ!!

(1)第 10 回 N I E 全国大会 (鹿児島) (7/28~29) でパネリストに!

標記の大会「広げよう深めよう NIE～豊かな学びを求めて～」で、札幌市立月寒中学校の司書教諭三上久代さんが、「熱討・NIE これまでの十年、これからの十年」をテーマにしたパネルディスカッションでパネリストを務められました。全国の実践をもとに NIE の有用性や理論化の必要性を確認しました。

NIE (Newspaper in Education) とは、学校等で新聞を教材にする学習活動のことで、国語教諭も兼任されている三上さんは、昨年からは北海道教育大学との共同研究で、NIE と学校図書館を活用した国語の授業に取り組んでおり、新聞を使った教育の方法の理論化や指導方式の体系化が必要と訴えています。

(2)学校図書館問題研究会第 21 回大会 (神奈川) (8/7~9) で実践報告!

標記の大会「広げよう! 学校図書館の可能性～専門性に根ざした協働のあり方を考える～」で札幌聖心女子学院中学高校の学校司書新田裕子さんが、「情報活用能力を育成する～図書館と情報センターの連携～」と題し、実践報告をされました。聖心女子学院では、学校図書館本来の仕事である授業援助だけでなく、情報センターと連携して、各情報メディアの特性や信頼度を生徒自身に比較検討させる授業などを行っています。

相互貸借に関わるお知らせ

Web OPAC を公開している図書館のうち、分館 (地区館) 等があるところへの借受申込みについては、次のようになっていきますのでご承知願います。

《それぞれの地区館へ直接申し込むところ》

札幌市、旭川市

《一括して本館 (中央館) へ申し込むところ》

上記以外

なお、各図書館への借受申込みについては、それぞれの必要事項を確認の上、必ず付記し申し込みください。

編集後記

図書館の方々には、『Do-Re』を通してレファレンスの奥の深さを実感いただいているのではと思いますが、普段図書館を利用しない人は、図書館自体、自分で調べた本を貸して（見せて）もらうという認識でしかないようで、読書相談や専門機関の紹介、パソコンの検索方法まで気軽に教えてくれるという情報センターとしての機能を知っている人はまだまだ少ないのかな、と感じます。レファレンス事例を話すと皆「そんなことまで？」と驚きます。もっともっと驚いていただきたいと思うこのごろです。（K）

今号の「こんなのあります」は、普段から興味を持っている分野で書いてみました。日本妖怪の河童や天狗は海外でも割りと有名で、紹介される頻度も高いのですが、解説文を読むと「（河童は）キュウリに乗って旅してまわる」など、所々に変な記述もあってとても興味深いです。ちなみに枠内コラムの題名は某SF小説風にしています。（T）

早いもので気がつけば雪虫が飛ぶ季節です。冬への備えを考えなくては。などと考えながら結局やることはいつもと同じの……。日々是口実。？（S）

「市町村のみなさんからの発信」で、砂川市の2コママンガはとてもわかりやすいですね。当館のこともPRしてもらい、嬉しいです。絵の得意な人がいると大助かりですね。12月からのレファレンス特集が楽しみです。（ひ）

先日お客さまにレファレンスサービスについての説明をすると、「そんなことまで教えてくれるなら、近所に司書さんがいたらすごい便利だろうね！」とのお言葉。まだまだサービスについて知られていないなという反省とともに、こうして少しずつでも司書の役割を説明していければ、図書館に対する認識も向上していくのではと思いました。まず手始めは友人から……。と思っています。

とは言え、「読書の秋」です。仕事に関係のない分野の本なども、じっくり読み耽りたいと思っています。（I）

今回は、道内公共図書館からの情報提供を2館にお願いしました。お忙しいところご協力感謝します。砂川市の図書館は、地味ながら堅実に丁寧なサービスを実践されています。北広島市は、皆さんご存知のとおり道内公共図書館の先端をいくサービスを展開されている図書館の一つです。皆さんお読みになった感想をぜひお寄せください。（宮）



Do - Re (どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の
略から名付けました。
しかしながら
“ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 21 (通巻25号)

発行年月日 平成17年11月11日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069 - 0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
